

# 令和2年度地域包括支援センター運営評価

# 令和2年度地域包括支援センター運営評価の実施方針

## 1 評価の目的

地域包括支援センターの人員体制及び業務状況を定期的に把握・評価し、事業の質の向上のために必要な改善を図り、地域包括ケアシステムの深化に向けた取組を加速させることを目的とする。

## 2 評価根拠

- 介護保険法第115条の46  
市町村は、定期的に、地域包括支援センターにおける事業の実施状況において、評価を行うとともに、必要な措置を講じなければならない。
- 地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について  
平成30年7月4日付け老振発0704第1号厚生労働省老健局振興課長通知により、「市長村及びセンターは、所定の評価指標による取組等の確認を行い、市町村は、自身の結果と管内センターの結果について、都道府県を通じて厚生労働省へ報告を行う」こととされている。

## 3 評価時期

- 前年度の地域包括支援センターの運営状況について、実績が確定する毎年6月以降の地域密着型サービス等運営審議会において審議の上、評価する。

## 4 評価の流れ

- 評価項目ごとに地域包括支援センターが自己評価を行う。
- 青森県を通じて地域包括支援センターの自己評価の結果を厚生労働省へ報告する。
- 厚生労働省において、全国の結果を集計後、県を通じて結果が周知される。
- 地域包括支援センターの自己評価と厚生労働省が集計した全国の結果を、地域包括支援センター運營業務委託の契約継続の観点を含め、地域密着型サービス等運営審議会において点検を行い、地域包括支援センターの課題を踏まえた機能強化策の検討を行う。

## 5 評価結果の公表

- 評価結果は、今後の取組の質の向上のために、地域包括支援センターごとに7つの業務区分※に沿ってレーダーチャート化した上で、各地域包括支援センターに示すとともに市ホームページでも公表する。

※ 7つの業務区分

- 1 組織運営体制等（組織運営、個人情報管理、利用者満足向上）
- 2 個別業務（1）総合相談支援  
（2）権利擁護  
（3）包括的・継続的ケアマネジメント支援  
（4）地域ケア会議  
（5）介護予防ケアマネジメント・介護予防支援
- 3 事業間連携（社会保障充実分事業）

# 1 地域包括支援センターおきだて 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

## 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

### 【重点目標】

- ・地域における連携を今後も強化して継続しながら、相談できる関係づくりを専門職、地域住民のなかでも出来る仕組みづくりを行うため課題の把握や連携をさらに強化していきたいと考える。
- ・地域住民、子世代・孫世代に認知症や認知症の方への対応について普及啓発し、認知症になっても地域で安心して暮らせるように認知症高齢者への見守り体制を構築し、多世代・他分野の課題を意識して幅広い分野の関係機関との連携を進めていき包括的継続的ケアマネジメントの強化につながる環境整備に取り組む。

### 【実施結果】

- ・地域における連携を今後も強化して継続していくこと、特に働く世代や若い世代への強化を今年度は実施してきた。相談できる関係づくりや相談しやすい関係づくりを地域、企業などへ普及啓発してきたことから企業からの相談なども増え、協力できる体制も徐々にできてきている。

### 【評価・課題分析】

- ・地域における連携を重点的に活動してきたものの、コロナ禍であり感染予防の観点からワーキンググループの立ち上げはできなかったが、地域における連携と課題の把握と解決策の検討を図るため、地域ケア会議を毎月実施してきた。地域課題に関する取り組みも小グループ、地域、専門職を交えて連携作りもおこなってきた。地域住民への普及啓発、幅広い分野の関係機関との連携に関しても感染予防に努め可能な限り実施してきたが、コロナ禍であり困難な部分もあった。

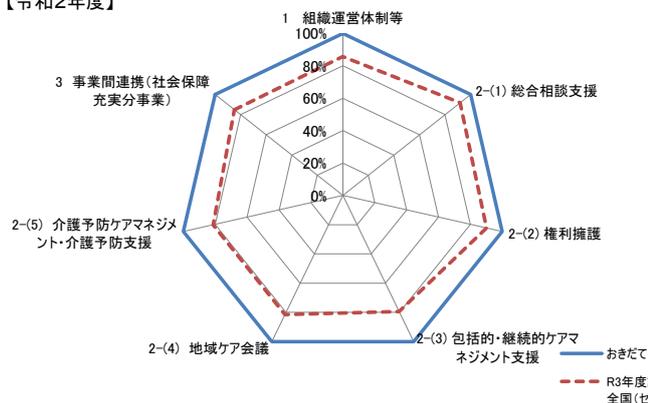
## 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
1 おきだて	946	1,243	5	9	0	5	12	1	4	8	78	2

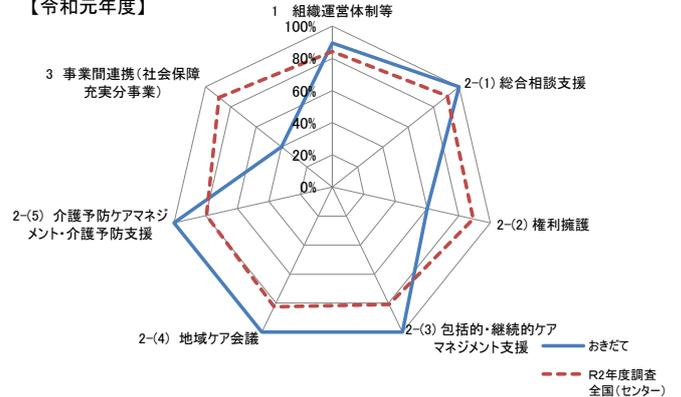
## 3. 運営評価

### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

#### 【令和2年度】



#### 【令和元年度】



### (2) 令和2年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っており、全ての項目が達成されている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制、2-(2)権利擁護、3事業間連携の項目である。

## 2 地域包括支援センターすずかけ 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

### 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

#### 【重点目標】

・日常的な地域活動及び地域ケア会議等を通じ、担当圏域における現状やニーズを把握し、重点的に行うべき業務を定めて業務を実施する。

#### 【実施結果】

・新型コロナウイルス感染拡大傾向の中、地域ケア会議等の実施が困難であった。

#### 【評価・課題分析】

・会議開催における実施方法等の工夫が必要と考える。

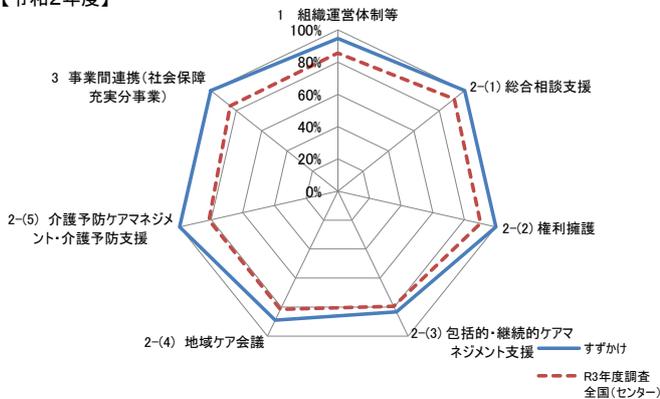
### 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
2 すずかけ	554	1,278	2	1	1	4	6	0	2	2	49	0

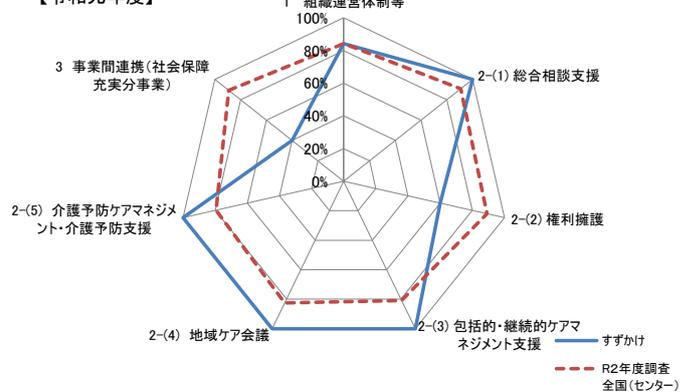
### 3. 運営評価

#### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

##### 【令和2年度】



##### 【令和元年度】



#### (2) 令和2年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善された主な項目は、1組織運営体制、2-(2)権利擁護、3事業間連携である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
1組織運営体制等 7 3職種(それぞれの準ずる者は含まない)を配置しているか。	・保健師に準ずる者(地域ケア等に関する経験のある看護師)を配置している。	・人員基準は満たしているものの、原則として保健師を置くこととされていることから、保健師の確保を目指す。
2(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援 34 担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者との意見交換の場を設けているか	・介護支援専門員のニーズに基づいた会議の開催が、新型コロナウイルス感染拡大防止のためできなかった。	・オンラインを活用し、会議等の意見交換の場を設ける。
2(4)地域ケア会議 44 センター主催の地域ケア会議において、地域課題に対して検討しているか。	・個別ケース支援の会議は開催するものの、地域課題の検討までには至らなかった。	・個別ケースのみならず、地域課題を検討する場を積極的に設ける。

### 3 中央地域包括支援センター 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

#### 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

##### 【重点目標】

- ・認知症のかたでも住み慣れた地域での生活が継続できるように、地域における認知症に対する理解の促進や見守り等の支援体制の整備を継続していく。
- ・関係者同士の顔が見えるだけでなく、何でも相談できる関係づくりや課題の把握、連携を継続的に強化する。また、地域活動団体の周知を図り、活動の継続支援や新規発掘を行う。
- ・地域住民に対し、認知症や認知症のかたへの対応について普及啓発し、認知症のかたでも安心して暮らせるよう、自助・互助・共助・公助の適切なコーディネーター、社会資源など活用し、認知症高齢者への見守り体制を構築する。
- ・独居高齢者等に対し、見守り等の取り組みを継続的にいき、心身の状況や生活の実態を把握する。

##### 【実施結果】

- ・地域ケア会議については、各関係機関から情報収集し、個別ケース(困難事例)を情報共有し、繰り返し議論し方向性や支援の在り方等確認した。
- ・1人暮らしの認知症のかた等、地域やかかりつけ医等からの連絡を受け、緊急対応又は訪問し医療機関や介護サービスに繋がるように努めた。

##### 【評価・課題分析】

- ・認知症高齢者は今後も増加していくと推測されているため、今後も各医療機関や介護事業所、福祉、地域など様々な機関との連携を今後も強化していく必要がある。

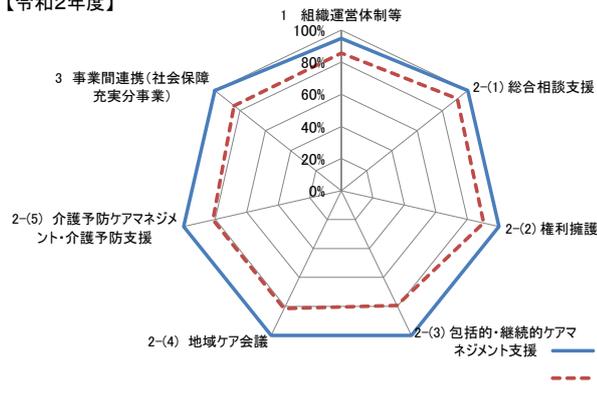
#### 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
3 中央	687	1,439	8	2	1	15	16	0	1	2	108	2

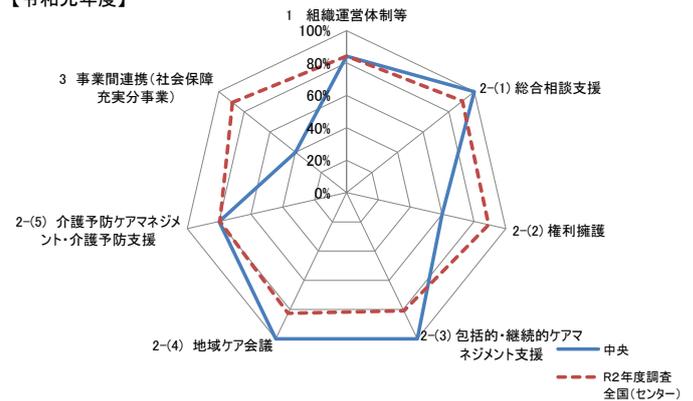
#### 3. 運営評価

##### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

###### 【令和2年度】



###### 【令和元年度】



##### (2) 令和2年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制等、2-(2)権利擁護、2-(5)介護予防ケアマネジメント・介護予防支援、3事業間連携である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
1組織運営体制等 73職種(それぞれの準ずる者は含まない)を配置しているか。	・保健師に準ずる者(地域ケア等に関する経験のある看護師)を配置している。	・人員基準は満たしているものの、原則として保健師を置くこととされていることから、保健師の確保を目指す。

## 4 東青森地域包括支援センター 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

### 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

#### 【重点目標】

- ・介護予防普及啓発活動の周知を図り、定期的な運動の動機付けを行うことで住民が主体となって継続的に集える場について、新規発掘を行う。また、すでに住民主体へ移行している活動団体について、今後も連携を図り後方支援を行っていく。
- ・医療関係者、介護関係者との連携を強化するとともに、地域における繋がりを活かしながらネットワークを構築し、新たな社会資源をつないでいく事で多様性を持った支援体制を構築していく。
- ・地域住民に対し、認知症ケアパスの普及啓発を図ることで必要に応じて相談し早期受診、治療など適切に認知症に対応できる体制づくりを勤めていく。

#### 【実施結果】

- ・健康寿命の延伸と介護予防の推進を目的に、定期的な運動の動機付けと新規の活動団体の開拓を目標とし、介護支援専門員と高齢者介護相談協力員対象の研修会や各種出前講座先において、介護予防に係る地域包括支援センターの活動支援について情報提供し、積極的な活用の呼びかけを行った。新規の活動団体の立ち上げには至らなかったが、地域の既存団体への後方支援を行うことで継続開催に寄与することができた。
- ・地域ケア会議や個別ケースの対応の過程において、医療・介護職ほか幅広い関係者を参集し、地域課題の情報共有と、課題の解決にむけて意見交換を行い、連携を図ることができた。
- ・認知症カフェや認知症サポーター養成講座を開催し、地域住民へ認知症に対する正しい理解を促すとともに、認知症ケアパスを活用し自身や身近な方が認知症を疑う症状がみられた際の対応方法について周知を図った。

#### 【評価・課題分析】

- ・介護予防の必要性を地域住民が感じているものの、介護予防活動を継続して行うための会場やまとめ役、新型コロナウイルス感染症対策の要件など様々な課題があり、新規の活動団体の開拓までには至らなかった。既存の活動団体への後方支援を行っていくとともに、新型コロナウイルス感染症対策を取り入れた運営の助言等、活動の継続支援へも力を入れ、高齢者の社会参加、生きがいや介護予防に繋げられるよう努めていく。
- ・地域ケア会議や各種研修会に参加し、医療・介護等従事者と必要な情報共有と意見交換を行うことで、課題の整理やそれぞれの役割の確認、及びネットワークの構築を図ることができた。今後も地域における繋がりを活かしながらネットワークを構築し、新たな社会資源に繋いでいくことで多様性を持った支援体制を整備するとともに医療・介護サービスが効率的・効果的に提供されるよう、関わりを継続していく。
- ・認知症に関する相談は、症状が重度化してからのものも多く、迷い老人の問い合わせの件数も増えてきていることから、初期の段階から介入し安心して地域の中で暮らし続けることができるよう認知症ケアパスの普及啓発を含め、認知症へ適切に対応するための体制づくりは今後も重要と思われる。地域住民に対する働きかけはもちろん、介護・医療従事者に対して認知症の対応力向上のための研修を実施し、引き続き連携の推進を図っていく。

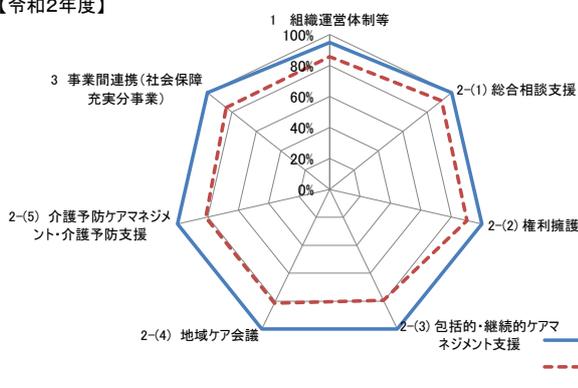
### 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
4 東青森	1,675	3,026	10	6	1	9	21	0	5	5	74	2

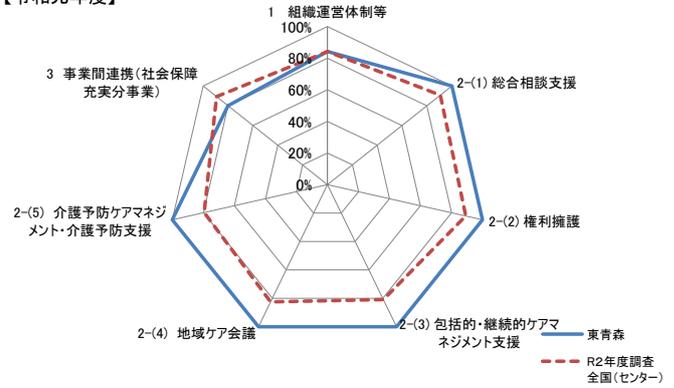
### 3. 運営評価

#### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

##### 【令和2年度】



##### 【令和元年度】



#### (2) 令和2年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制等、3事業者間連携である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
1組織運営体制等 7 3職種(それぞれの準ずる者は含まない) を配置しているか。	・保健師に準ずる者(地域ケア等に関する 経験のある看護師)を配置している。	・人員基準は満たしているものの、原則とし て保健師を置くこととされていることから、 保健師の確保を目指す。

## 5 南地域包括支援センター 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

### 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

#### 【重点目標】

- ・対象者・対象者家族での複合課題等、多岐にわたる相談が増えていることから、町会長・民生委員のみならず、地域住民(多世代)に向けて地域包括支援センターの周知を引き続きしていく。町会長や民生委員と「顔の見える関係づくり」に努め、相談しやすい体制づくりをし、課題の把握、連携強化をしていく。
- ・相談や関わりの少ない地域や活動の少ない地域へ出向き、社会資源の把握・発掘、地域全体と個別のケースの実態把握をする。
- ・これまで実施した地域ケア個別会議、相談協力員研修会+認知症ケア多職種協働研修会であがった課題等を分析し、地域ごとの地域ケア会議を開催し、地域課題発見、必要であれば政策形成へ持っていけるようにしていく。

#### 【実施結果】

- ・新型コロナウイルスの感染予防対策のため、地域行事が減り、年4回の広報誌回覧で町会長と連絡を取り合い、顔の見える関係づくりに努めた。
- ・地域住民に対しての包括の役割周知に関して、介護予防対象者把握事業などを通して周知を図ることはでき、地域の場の把握も行った。また、町会関係者や民生委員などの地域の関係者ともロコトレなどを通して顔の見える関係性が出来ており、町会や民生委員経由で相談につながったケースも多かった。しかし、ロコトレ未開催地域や介護予防対象者把握事業を行わなかった地域住民や、多世代にわたる地域住民に対しての周知活動は十分に行えなかった。
- ・コロナ禍の中で地域ごとの地域ケア会議は実施に至らなかったが、困難ケースに対し、地域ケア会議を実施、各専門職から意見を聞き、ケアマネジメントへ実践できる助言を頂いた。

#### 【評価・課題分析】

- ・地域ケア会議では、事前打ち合わせ、専門職選定、振り返りを行うことが出来、ケースへの理解を深め、地域課題の共有を図ることができた。
- ・相談が来ない地区や地域のつどいの場がない地区の対象者の把握を実施することで、全体としての地域の特徴を知ることができた。
- ・地域活動が活発な地域では民生委員や町会関係者等の地域の関係者との関係性が出来ており、相談につながりやすいが、それ以外の地域では必ずしも情報が即時に入らず、支援が必要なケースが埋もれてしまったり、かなり困難な状況になってから相談につながっている。支援が必要な人の声なき声聴くためにも、より一層包括の支援活動への周知活動(ホームページ、SNS、チラシなど、各年代の情報アクセスのしやすさに配慮して)や、アウトリーチ、民生委員等の関係者と関係性を構築して情報収集をすること等が必要になってくる。
- ・居宅介護支援事業所部会では、社会資源について研修を行い、社会資源リスト・マップ作成を行い、地域課題を意識してもらうことが出来た。また、社会資源リストを活用しケアプラン・ヘルプフォームサービスを位置づけられるように取り組んだ。

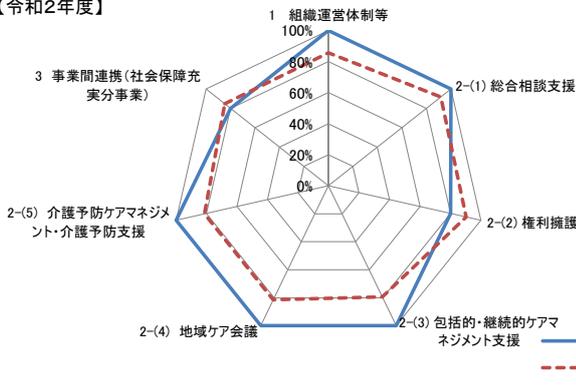
### 2. 活動実績

5	南	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
				成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
		950	1,623	0	8	2	12	17	1	13	19	73	2

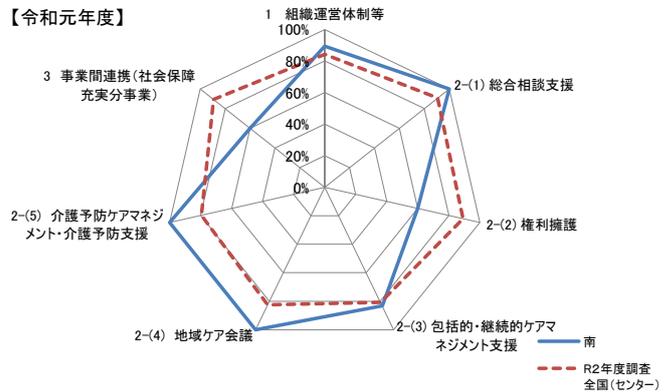
### 3. 運営評価

#### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

##### 【令和2年度】



##### 【令和元年度】



#### (2) 令和2年度評価分析

- ・2-(2)権利擁護、3事業者間連携以外は、すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制、2-(2)権利擁護、2-(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援、3事業者間連携である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
2(2)権利擁護 30 消費者被害に関する情報を、民生委員・介護支援専門員・ホームヘルパー等へ情報提供する取組を行っているか。	・成年後見制度などに関する講話や出前講座等を行ったものの、消費者被害に関する情報提供を実施していなかった。	・消費者被害に関する情報についても民生委員等への情報提供に取り組む。
3事業者間連携(社会保障充実分事業) 54 認知症初期集中支援チームと訪問支援対象者に関する情報共有を図っているか。	・認知症初期集中支援チームを活用した実績がなかった。	・認知症初期集中支援チームを活用することなく、ケース支援ができていたが、必要となった際には、直ちに活用できるよう連携を図っていく。

## 6 東部地域包括支援センター 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

### 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

#### 【重点目標】

- ・改めて高齢者ニーズと社会資源を把握・整理する。
- ・社会資源マップを作成し地域住民や関係機関へ情報提供する。
- ・高齢者ニーズに対応する社会資源が存在しない場合は、住民主体の支え合いによる対応を検討・提案・構築支援する。
- ・医療・介護等の関係機関との連携協力の他、高齢者だけでなく子供から中年期の住民に対し認知症予防、認知症早期発見・早期治療の重要性を普及啓発する。
- ・ケアマネジャーが活き活き活動していけるよう支援する。

#### 【実施結果】

- ・高齢者ニーズの把握に関しては、新型コロナウイルス感染の影響により、地区踏査が一地区しか実施できず把握出来なかったため、日常生活圏域ケア会議にも反映できなかった。
- ・社会資源マップの作成と見直しに関する情報収集は、新型コロナウイルス感染の影響で社会資源を訪問できず、間接的な情報収集(インターネットや民生委員等)程度にとどまった。
- ・高齢者ニーズに対応する社会資源が乏しい地域(元気高齢者の集いの場がない)については、老人クラブやこころの縁側づくり事業の紹介をした。また、ゴミ捨て支援のみ必要なケースについては、滝沢地区老人クラブ八会の活動に繋いだ。
- ・医療・介護・地域住民との連携については、各種研修会・民生委員児童委員協議会定例会等を通じ連携をとる事が出来た。また地域住民への広報活動として回覧板を継続的に活用する事により、認知症や権利擁護の周知が出来た。
- ・認知症の普及啓発については、新型コロナウイルス感染の影響により、人を集めることが難しかったため、もの忘れ相談会、認知症サポーター養成講座、認知症勉強会の実施ができず、普及啓発に至らなかった。
- ・ケアマネジャー支援については、新型コロナウイルス感染の流行により例年包括センター連絡会主任介護支援専門員部会が開催している研修会を行えなかったが、居宅介護支援事業所へ新型コロナウイルス感染関連での業務の疑問や確認事項などアンケートを実施し、結果を周知することでケアマネジメント活動を後方支援できた。

#### 【評価・課題分析】

- ・久栗坂地区の75歳以上の1人暮らし及び高齢者のみ世帯を個別訪問したが、自宅に閉じこもりがちで近隣住民との交流もない方が多かったため、1人暮らし高齢者食事に以外に集いの場が必要である。
- ・社会資源の把握や整理が出来なかったため、次年度は社会資源を訪問し、情報収集を行うと共に、地域包括支援センターの周知に取り組む必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染の影響で、各種勉強会を開催する事ができなかったため、今年度開催予定の研修会を来年度開催したい。
- ・新型コロナウイルス感染の影響で、ケアマネジャーが活き活き活動するためのケアマネジメント業務スキルアップ研修会等を開催する事ができなかった。感染状況を見ながら開催等を検討していく。

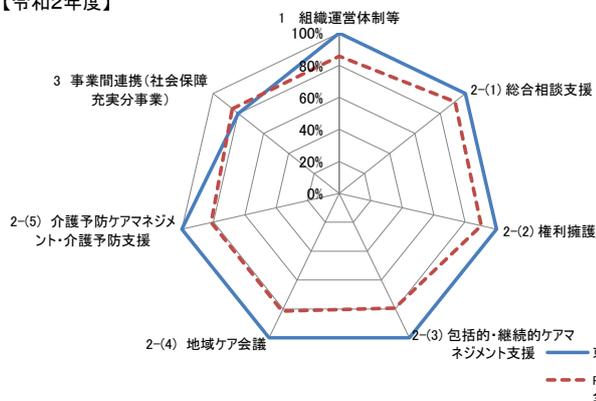
### 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
6 東部	677	1,779	18	8	3	2	9	0	8	4	90	2

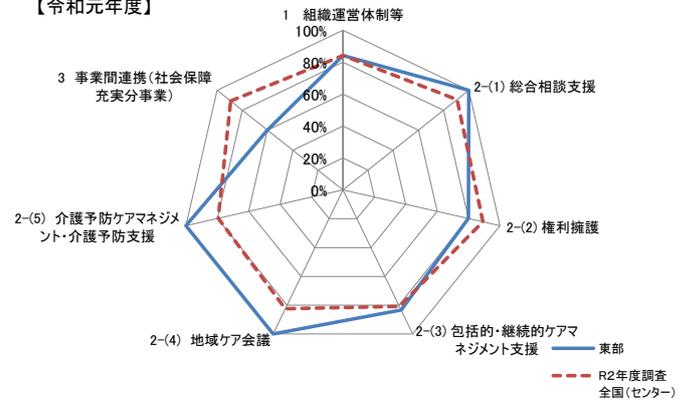
### 3. 運営評価

#### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

【令和2年度】



【令和元年度】



#### (2) 令和2年度評価分析

- ・3事業者間連携以外は、すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制、2-(2)権利擁護、2-(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援、3事業者間連携である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
3事業者間連携(社会保障充実分事業) 54 認知症初期集中支援チームと訪問支援対象者に関する情報共有を図っているか。	・認知症初期集中支援チームを活用した実績がなかった。	・認知症初期集中支援チームを活用することなく、ケース支援ができていたが、必要となった際には、直ちに活用できるよう連携を図っていく。

# 7 おおの地域包括支援センター 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

## 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

### 【重点目標】

- ・地域での関係者との顔の見える関係や、何でも相談できる関係づくり、課題の把握など、地域の活動に積極的に参加し、活動の継続支援、連携を強化していく。
- ・地域の認知症高齢者の見守り体制の構築を図る。
- ・自立支援・重度化防止に向けて、多職種協働で介護予防に努める。

### 【実施結果】

- ・地域の活動や集会などコロナ感染の影響で中止となり顔を合わせての交流などの機会が減少した。
- ・地域ケア会議も毎月の実施ができない状況もあったが後半は会場を病院の外に設け人数を制限しながら開催することができた。
- ・「つながり隊」定例開催ができなかった。見守り活動についての意見交換の場も設けることができなかった。
- ・認知症の相談から受診、治療につないだケースもあったがなかなか受診につながらない状況であっても訪問し様子を見ている。

### 【評価・課題分析】

- ・新型コロナウイルス感染拡大の中で対策を取りながら様々な活動を実施する方策を検討しながらできることを行っていく。
- ・ICTの利用による地域ケア会議を検討する。
- ・見守り活動についてつながり隊の活動を通じて地域のネットワークづくりを目指す。

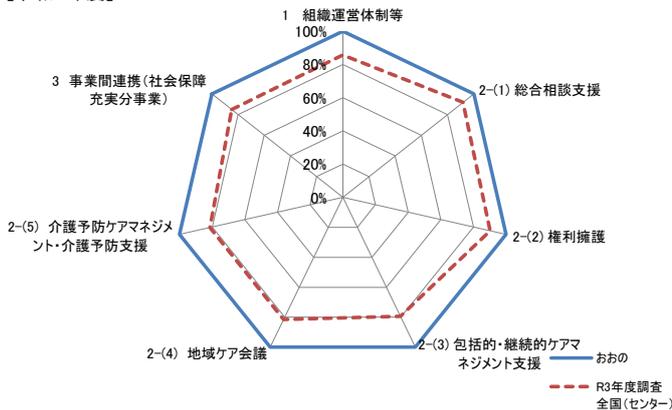
## 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
7 おおの	1,103	1,971	1	9	1	0	8	1	2	5	85	0

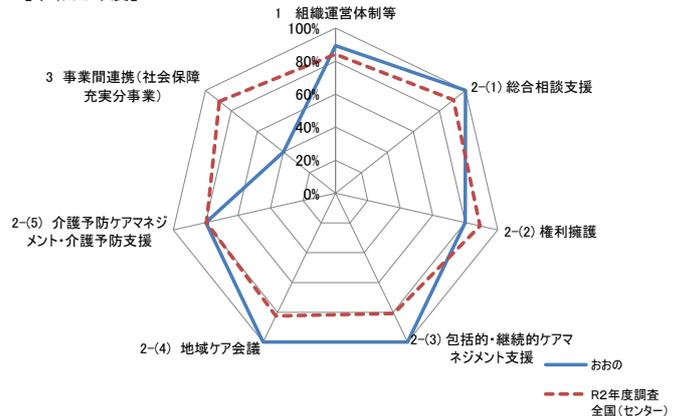
## 3. 運営評価

### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

#### 【令和2年度】



#### 【令和元年度】



### (2) 令和2年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っており、全ての項目が達成されている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制、2-(2)権利擁護、2-(5)介護予防ケアマネジメント・介護予防支援、3事業者間連携である。

## 8 地域包括支援センター寿永 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

### 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

#### 【重点目標】

・地域の高齢者が医療と介護の両方を必要とする状態になっても、さらに認知症になった場合でも可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう地域包括ケアシステムを推進する。

#### 【実施結果】

・コロナ禍ではあったが新しい生活様式のもと感染拡大防止に細心の注意を払いながら、認知症カフェや出前講座等の各種地域活動や地域ケア会議・多職種連携研修を開催することで地域包括ケアシステムの推進に繋がった。

#### 【評価・課題分析】

・地域活動やケア会議を活用して、多様な職種・組織と今後も連携し予防的な視点で高齢者の地域での生活を支えると共に、地域課題を住民と共に考える機会や医療機関や介護サービス事業所連携の機会を通じ継続的に地域包括ケアシステムの推進を行っていく必要がある。

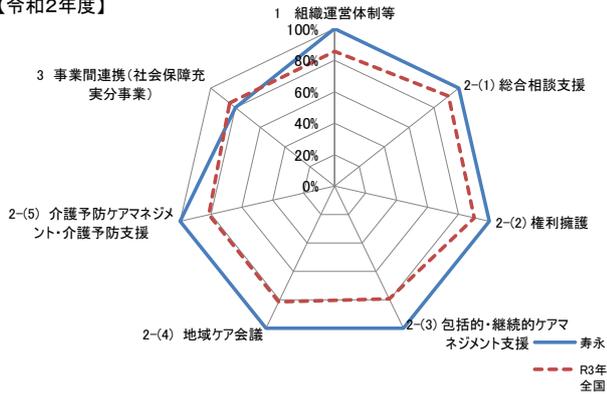
### 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
8 寿永	444	2,387	12	21	1	7	11	2	1	4	80	2

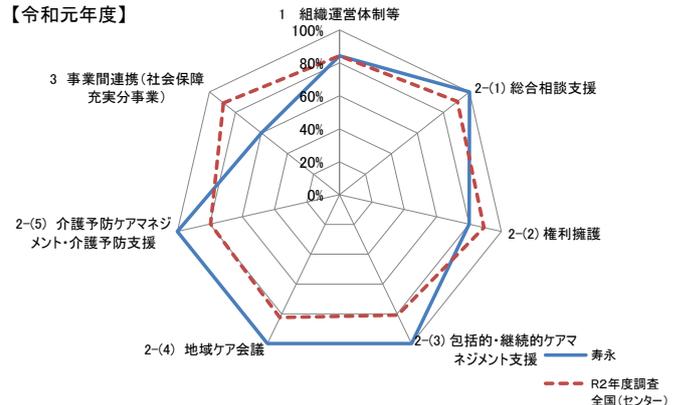
### 3. 運営評価

#### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

##### 【令和2年度】



##### 【令和元年度】



#### (2) 令和2年度評価分析

- ・3事業者連携以外は、すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制、2-(2)権利擁護、3事業者間連携である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
3事業者連携(社会保障充実分事業) 54 認知症初期集中支援チームと訪問支援対象者に関する情報共有を図っているか。	・認知症初期集中支援チームを活用した実績がなかった。	・認知症初期集中支援チームを活用することなく、ケース支援ができていたが、必要となった際には、直ちに活用できるよう連携を図っていく。

## 9 地域包括支援センターのぎわ 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

### 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

#### 【重点目標】

- ・地域住民や地域関係機関等が参加している地域支援ネットワーク会議の継続及び新たな地域での開催を目指し、担当エリアの地域課題抽出、検討を行う。
- ・地域資源の再把握。
- ・出前講座の継続、新たな場所での出張相談会の開催による地域包括支援センターの周知及び健康増進への意識づけや動機づけを行う。
- ・自立支援、権利擁護の視点に基づいた相談支援を行う。
- ・包括職員の資質向上に努める。

#### 【実施結果】

- ・おおむね、実施できた。

#### 【評価・課題分析】

- ・コロナ禍において、計画していた事業が中止せざるを得ない状況からのスタートだった。当初計画した事業計画の事業内容の変更を行い、達成するためにはどのような体制で行えば可能となるかを包括内で話し合い、また、地域住民へも確認しながら実施できた。集合体で行うことが実現できない状況であることで地域に出向き、インタビューをもとに地区診断をし、その結果をもとに3地域に分けてネットワーク会議を開催した。3地域のうち、2地域は実施できたが残りの地域はコロナ禍であり、次年度に取り組むこととした。
- ・出前講座については感染対策をしながら、地域のニーズに合わせて実施できた。
- ・権利擁護については、研修はオンラインで行い、地域ケア個別会議は最小限の人数、感染対策をしながら実施した。

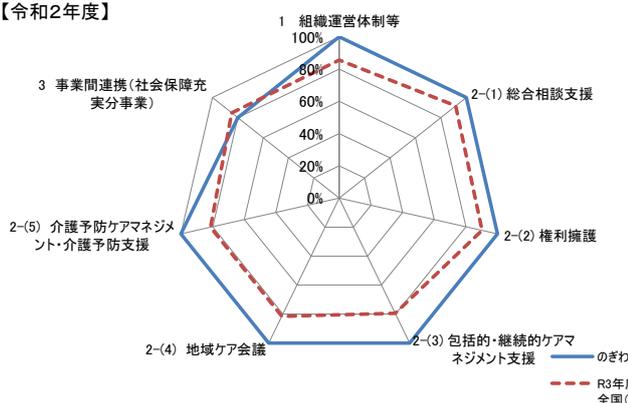
### 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護相 談協力員(人)	高齢者介護相 談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
9 のぎわ	1,003	1,871	4	12	0	23	21	1	0	9	61	3

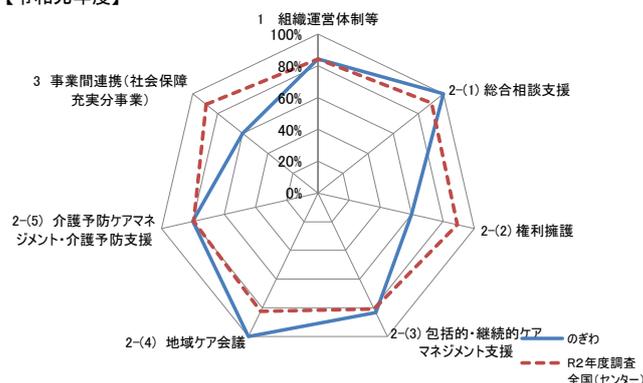
### 3. 運営評価

#### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

##### 【令和2年度】



##### 【令和元年度】



#### (2) 令和2年度評価分析

- ・3事業間連携以外は、すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制、2-(2)権利擁護、2-(3)包括的・継続的ケアマネジメント支援、2-(5)介護予防ケアマネジメント・介護予防支援、3事業者間連携である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
3事業者間連携(社会保障充実分事業) 54 認知症初期集中支援チームと訪問支援対象者に関する情報共有を図っているか。	・認知症初期集中支援チームを活用した実績がなかった。	・認知症初期集中支援チームを活用することなく、ケース支援ができていたが、必要となった際には、直ちに活用できるよう連携を図っていく。

# 10 地域包括支援センターみちのく 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

## 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

### 【重点目標】

- ・地域包括支援センターの周知活動や介護予防事業についての理解を深める周知活動を地域の機関の協力を得ながら活動を継続的に行う。
- ・地域の社会資源の把握とその情報が有効活用できるように圏域内の社会資源を今一度整理し、継続的に資源の把握ができる仕組みづくりとその方法についての検討を行う機会を設けるために、圏域内の関係者と協力し社会資源マップの作製を行う。

### 【実施結果】

- ・新型コロナウイルスの感染影響により達成できない状況にある。
- ・新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者が圏域内で続けて発生しており、地域の場所を借りての活動はもちろん集客しての活動も困難を極めている。
- ・周知活動に関しては2か月に1度の広報誌の回覧や参加できる場所の縁側事業や各地域の集会などへの参加時にとどまっている。
- ・資源マップに関してはこちらも活動の制限がありリニューアルできないが現時点で改善できる部分での作成を行う必要がある。

### 【評価・課題分析】

- ・介護予防の普及啓発に関しては出張相談や出前講座などの機会を多く持つ事を考えているがコロナ禍において圏域内で開催できる場所などを検討する必要がある。また八重田地区については現在活動がないので何かしらの関わりを持つ必要があることから年間の活動計画、出張の健康相談や健康教室の開催を行う。新型コロナウイルスに関してはその都度の対応を行う。
- ・地域資源の把握については毎年変化が見られる地域に対しての把握ができていないことから資源マップが常に最新になるように情報を更新できる仕組みを考える必要がある。定期的に状況把握できるよう地域踏査を業務内で行う。

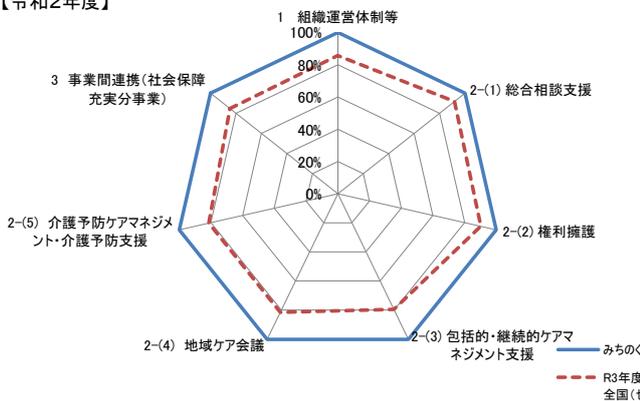
## 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護 相談協力員(人)	高齢者介護 相談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
10 みちのく	424	1,687	12	5	2	0	10	0	4	4	73	2

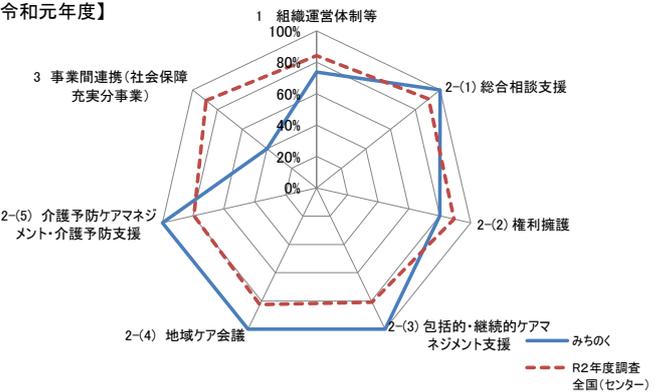
## 3. 運営評価

### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

#### 【令和2年度】



#### 【令和元年度】



### (2) 令和2年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っており、全ての項目が達成されている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制、2-(2)権利擁護、3事業者間連携である。

# 11 地域包括支援センター浪岡 令和2年度活動状況と運営評価結果の概要

## 1. 活動状況 (R2年度地域包括支援センター事業計画及び事業報告より抜粋)

### 【重点目標】

- ・地域における関係者同士の顔が見えるだけでなく、何でも相談できる関係づくりや課題の把握、連携を継続的に進行。また、活動の継続支援や新規発掘を行う。
- ・地域住民に対し、認知症や認知症のかたへの対応について普及啓発し、認知症のかたでも安心して暮らせるよう、認知症高齢者への見守り体制を作りのための検討を行う。

### 【実施結果】

- ・関係機関との顔の見える関係作りに関して、新型コロナウイルス感染防止の措置として、密を避ける対応を行っていたため、一堂に会して集まることは行わず、人数の制限を行ったうえでの短時間での話し合いや電話での相談等を実施した。

### 【評価・課題分析】

- ・外出自粛、密回避のための対策が取られていたことにより、積極的な活動ができなかった。

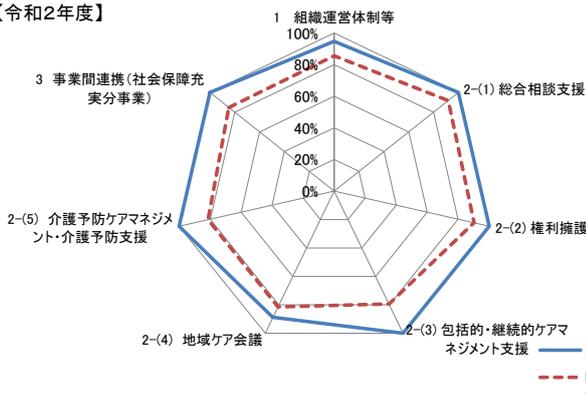
## 2. 活動実績

	実態把握 (延人数)	総合相談 件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア 会議(回)	認知症多職種 協働研修(回)	脳の健康 チェック(回)	認知症 カフェ(回)	高齢者介護 相談協力員(人)	高齢者介護 相談協力員研修 (回)
			成年後見制 度(件)	高齢者虐待 (件)	消費者被害 (件)	困難事例 (件)						
11 浪岡	1,298	2,207	18	12	1	7	10	0	2	7	48	2

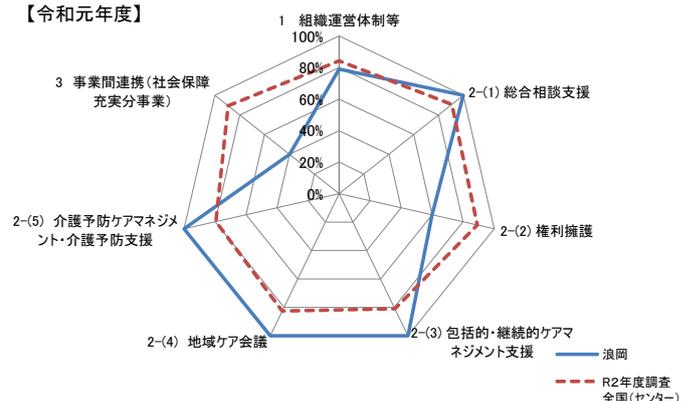
## 3. 運営評価

### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

#### 【令和2年度】



#### 【令和元年度】



### (2) 令和2年度評価分析

- ・すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制、2-(2)権利擁護、3事業者間連携である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
1組織運営体制等 7 3職種(それぞれの準ずる者は含まない)を配置しているか。	・保健師に準ずる者(地域ケア等に関する経験のある看護師)を配置している。	・看護師を配置し人員基準は満たしていたが、令和3年7月に看護師の他に保健師も配置された。
2(4)地域ケア会議 44 センター主催の地域ケア会議において、地域課題に関して検討しているか。	・個別ケース支援の会議は開催するものの、地域課題の検討までには至らなかった。	・事例提供者の介護支援専門員に対し、地域課題の検討についても周知を図る。

# 12 青森市 令和2年度活動状況と自己評価の概要

## 1. 活動状況

【地域包括支援センターに関する施策】 青森市高齢者福祉・介護保険事業計画第7期計画（H30年度からR2年度）から抜粋  
「地域包括支援センターの機能の充実」

- ・機能の強化
- ・役割分担・連携強化
- ・効果的な運営の継続
- ・地域ケア会議の推進

### 【実施結果】

- ・基幹型地域包括支援センターとして、各地域包括支援センターの統括調整や人材育成、後方支援などを実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、対面での在宅医療・介護連携のための会議や研修の一部が中止となったものの、開催可能な方法を検討し実施した。
- ・各圏域の虐待や認知症などの対応困難な事例について、相談に応じ、同行訪問等の支援を行った。
- ・青森市地域密着型サービス等運営審議会において、地域包括支援センターの評価を行い、運営状況等について情報を公開した。
- ・地域ケア会議に参加し、地域課題を共有し活動の支援を行った。

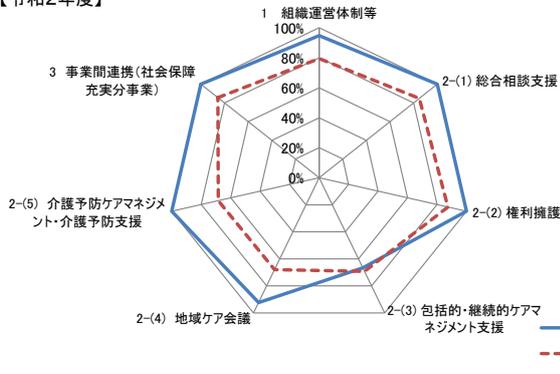
### 【評価・課題分析】

- ・地域包括支援センター連絡会やセンター長会議を活用し、情報の共有及び協議を繰り返し行い連携を強化することができた。
- ・地域ケア会議への参加や困難事例への支援対応等、また、人材育成のための研修会の開催等により各包括の後方支援を実施し、運営継続のための支援ができた。

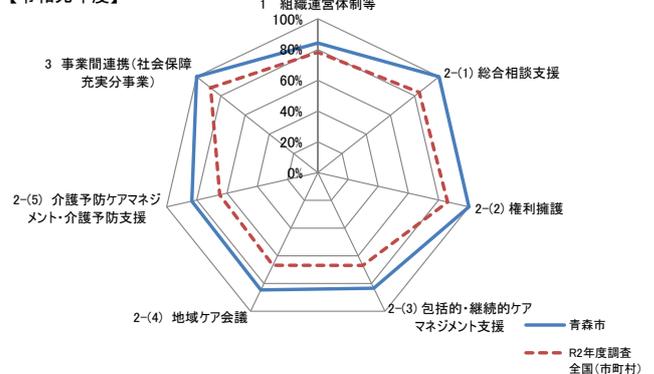
## 2. 運営評価

### (1) 令和2年度と令和元年度の比較

【令和2年度】



【令和元年度】



### (2) 令和2年度評価分析

- ・2-(3) 包括的・継続的ケアマネジメント以外は、すべて全国平均を上回っている。
- ・前年度と比較すると、改善されたところの主な項目は、1組織運営体制、2-(4) 地域ケア会議、2-(5) 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援である。

評価指標 未達成のもの	要因	改善策
1組織運営体制等 8 センターの3職種（準ずる者含む）一人当たり高齢者数（圏域内の高齢者数/センター人員）の状況が1,500人以下であるか。	・職員一人当たり高齢者数は、1,594人である。	・前年度よりは改善されたが、他市の動向や高齢者人口等を踏まえながら、適切な人員配置となるよう検討を進める。
2(3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援 30 日常生活圏域ごとの居宅介護支援事業所のデータを把握し、センターに情報提供しているか。	・各包括では、担当する圏域内の居宅介護支援事業所のデータを把握しているものの、取りまとめて包括へ情報提供していなかった。	・令和3年度から日常生活圏域ごとの居宅介護支援事業所に関するデータを整理し、各包括へ提供しており、今後も継続していく。
34 介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な医療機関・関係者との意見交換の場を設けているか。	・介護支援専門員のニーズに基づき、多職種研修会を企画したが、新型コロナウイルス感染症拡大により集合で開催できず、録画によるCDの配付で実施した。	・令和3年度は、県主催の在宅医療・介護連携に関するオンライン研修会を各包括に周知し、意見交換の場を設けた。
2(4) 地域ケア会議 47 センター主催及び市町村主催も含めた、地域ケア会議の検討内容をとりまとめて、住民向けに公表しているか。	・地域ケア会議の議事概要等について、取りまとめているものの、住民向けの公表は行っていなかった。	・住民向けの公表方法等について、他市の動向等を踏まえながら、令和3年度に公表している。

## 青森市地域包括支援センターの活動実績一覧

### (1)各日常生活圏域の基本情報について(R3.4月末時点)

		高齢者人口(人)	職員数(人)	職員一人あたりの人口(人)	高齢化率(%)
1	おきだて	8,011	5	1,602	30.87%
2	すずかけ	8,913	5	1,783	29.94%
3	中央	8,147	5	1,629	34.60%
4	東青森	8,722	5	1,744	30.79%
5	南	9,017	5	1,803	31.23%
6	東部	8,429	5	1,686	37.73%
7	おおの	9,084	5	1,817	24.73%
8	寿永	8,043	5	1,609	32.70%
9	のぎわ	7,305	5	1,461	34.95%
10	みちのく	6,084	6	1,014	33.26%
11	浪岡	5,906	4	1,477	33.83%
	合計	87,661	55	1,594	31.67%

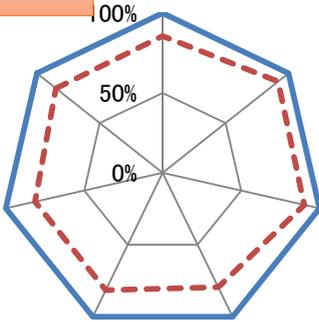
### (2)令和2年度の活動状況

		実態把握(延人数)	総合相談件数(件)	総合相談のうち権利擁護に関する相談件数				地域ケア会議(回)	認知症多職種協働研修(回)	脳の健康チェック(回)	認知症カフェ(回)	高齢者介護相談協力員(人)	高齢者介護相談協力員研修(回)
				成年後見制度(件)	高齢者虐待(件)	消費者被害(件)	困難事例(件)						
1	おきだて	946	1,243	5	9	0	5	12	1	4	8	78	2
2	すずかけ	554	1,278	2	1	1	4	6	0	2	2	49	0
3	中央	687	1,439	8	2	1	15	16	0	1	2	108	2
4	東青森	1,675	3,026	10	6	1	9	21	0	5	5	74	2
5	南	950	1,623	0	8	2	12	17	1	13	19	73	2
6	東部	677	1,779	18	8	3	2	9	0	8	4	90	2
7	おおの	1,103	1,971	1	9	1	0	8	1	2	5	85	0
8	寿永	444	2,387	12	21	1	7	11	2	1	4	80	2
9	のぎわ	1,003	1,871	4	12	0	23	21	1	0	9	61	3
10	みちのく	424	1,687	12	5	2	0	10	0	4	4	73	2
11	浪岡	1,298	2,207	18	12	1	7	10	0	2	7	48	2
	合計	9,761	20,511	90	93	13	84	141	6	42	69	819	19

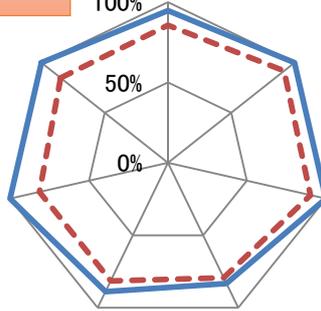
# 令和2年度地域包括支援センター運営評価 レーダーチャート一覧

— 各自己評価  
- - - 全国平均

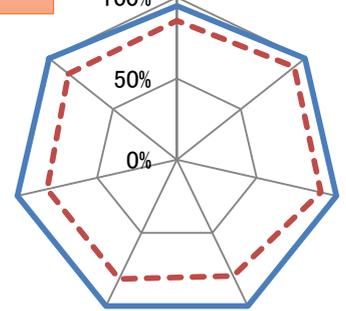
1 おきだて



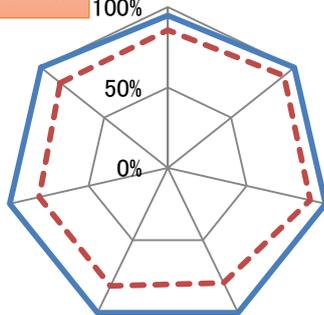
2 すずかけ



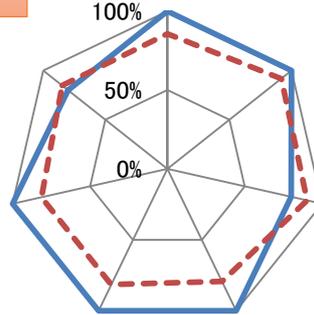
3 中央



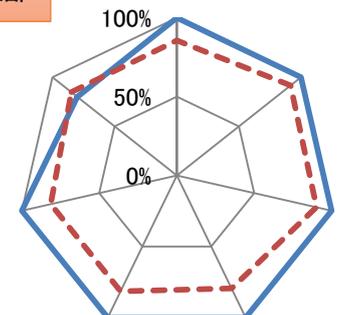
4 東青森



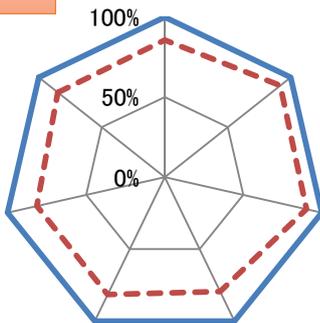
5 南



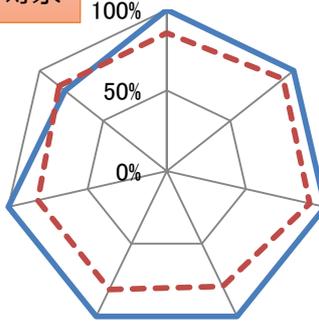
6 東部



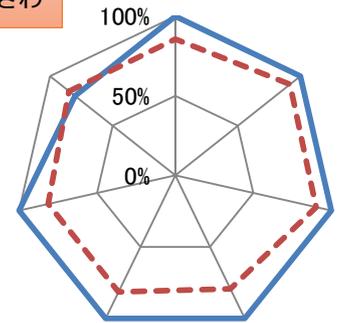
7 おおの



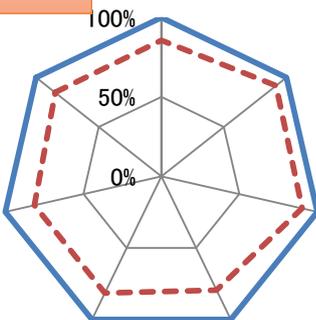
8 寿永



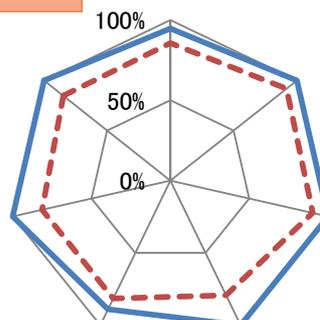
9 のぎわ



10 みちのく



11 浪岡



12 青森市

